

吉田武史

学生時代に起業。現在は薬剤師と行政書士の
ダブルライセンスで、「他にないこと」を追求

Yoshida Takeshi

吉田法務事務所 代表 行政書士

2004年東京理科大学薬学部卒業。06年同大学大学院修士課程修了。現在は共立薬科大学大学院で博士課程に在籍。薬学部3年に在籍中に法務事務所を起業し、現在に至る。

海外旅行、読書、舞台鑑賞、美味しいものの食べ歩きなど、かなり多趣味。



もし、あなたが薬学部の友達から行政書士の資格をとったと聞いたらどう反応するだろう。「すごい」と驚嘆するか、または「薬学生なのに、どうして」と不思議に思うだろうか。まして学部生の頃に開業したと聞いたら…。

路面電車が街を行き交い、下町の面影が残る山手線大塚駅周辺。ここに薬事法専門の『吉田法務事務所』がある。事務所代表の吉田さんは薬剤師でありながら、行政書士の資格を持つ。医薬品や医薬部外品、健康食品、化粧品などの薬事法関連、輸出入手続きや食品法関連、ISO法務関連など、かわる業務は多岐にわたる。

吉田さんが行政書士の資格を取ったのは、薬学部3年に在学中のこと。4年生の初めには事務所を開業した。ダブルライセンス取得の理由はなんだろう。

「行政書士の資格をとったのは、もともと法律が好きだったこともある

のですが、今後規制緩和の時代を迎えることが明らかでしたし、将来的に薬剤師が過剰になるのを感じていたので、薬剤師以外にもスキルがあれば相乗効果が生まれ、リスク回避もできると思いました」

2年後の薬事法大改正を見据えて勉強を開始

修士課程に進んだ吉田さんは研究と仕事を並行して続けていたが、やがて進路を決める時期にさしかかる。研究が好きだったのでそのまま研究に進みたい気持ちもあったし、調剤薬局での仕事やMRにも興味があったが、最終的には法務事務所を続けることに決定した。そこに不安はなかったのだろうか。

「なかったですね。実は修士課程の頃は調剤薬局でアルバイトをしながら事務所を営んでいたのです。将来的にはわかりませんが、薬剤師の給料は高額なので、皆さんも何かやりたいことがあるのなら、アルバイト

トをしなからその合間の時間を使ってチャレンジすることもできると思います」

さらに、好機を捕らえて逃さなかったこともプラスに作用した。

「私が行政書士の勉強を始めた当時、2年後に薬事法の改正が控えていました。非常に大きな改正でしたので、これまで法務の仕事をしてきたベテランとも一緒にスタート地点に立つことができると考え、改正を意識して準備しました」

でも、他の企業へ就職しなかった一番の理由は人に使われなくなかったからでしょうね」と笑う。

自分にとっての「根拠」を見極める視点を持つ

大学時代から将来を見据える能力に長けている吉田さん。どんな風にすればそんな視点を持てるのだろうか。

「今の時代、危機管理が足りないと思います。例えば、企業に属していても会社がなくなったら皆さん、困ってしまいますよね。何か一つを失っても自分の足で立っていられるようにするにはどうしたらよいかを念頭に置きつつ、信じるべき「根拠」を選別してほしいです。自分にとって本当に必要なもの、意味があるものを取捨選択する視点があれば、人と違ったものが見えてくると思います」

その「根拠」を見極める視点が、今の仕事をスタートさせることに生きている。



吉田法務事務所
東京都豊島区南大塚3-54-2-202
Tel 03-6413-1709
http://yakuji.net/

「法務事務所開業にあたっては、差別化のポイントを絞っています。薬剤師の資格を持ち、薬事法に特化した行政書士は他にいません。その要素にプラスして、現在、大学院の博士課程で研究をしています。大学には最先端の情報が集まっていますから、「薬剤師」と「行政書士」と「研究」、この3つを融合させて差別化を図っているのです」

自信に満ちているようにも聞こえるが、決してそこで安心しているわけではない。

「自営業というものは常にリスクがあるものだと思います。それでも、スタッフを初め、守るべきことがあれば、前進していくしかないのです。仕事をしていく上でぶつかる壁はむしろ良いチャンスだと受け取り、もし問題があればそれをどう変えていくのか、後悔ではなくプラス方面に持って行かないといけないと思っています」

薬剤師を取り巻く状況が大きな変革を迎えている現在、将来を考える上で、吉田さんの言葉が大きなヒントを与えてくれたのではないだろうか。